

南小だより

佐世保市立吉井南小学校
No.34 R. 4. 1. 21 (金)
文責：山口伸一郎

校内書き初め大会を実施しました。

1月11日(火)～14日(金)にかけて、各学級において、書き初めに取り組みました。本校では、「新しい1年のスタートとなるこの時期に、日本の伝統文化である書き初めにふれさせることで、子どもたちに新しい願いや希望を持たせる機会とする」ことを目的として、毎年実施しています。

今年も、1、2年生は硬筆、3～6年生は条幅紙を使用して、毛筆で行いました。今年度の課題は、昨年度と同様に、1年生「ふじ山」、2年生「元気にあいさつ」、「大きなゆめ」、3年生「友だち」、4年生「明るい心」、5年生「新しい風」、6年生「将来の夢」でした。

琴の音が流れるいつもの書写の時間とは違った環境、雰囲気の中、どの学級も緊張感をもって取り組み、一人ひとりが集中して鉛筆やフェルトペン、毛筆を走らせていました。

書き上げた時には、思わず「ふーっ」と息を吐く姿も見られる等、一画一画、一筆一筆にしっかりと思いを込めることができました。一人3枚という限られた枚数の中、子どもたちが真剣な表情で書き初めと向き合う姿から、「日本古来の伝統文化に触れることの有意義さ」や「物事に集中して取り組むことの大切さ」等について、あらためて感じることができました。

でき上がった作品は、18日(火)～28日(金)まで、各学年の教室前廊下や階段掲示板等に展示する予定です。しかしながら、21日(金)に予定されておりました授業参観が新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりましたため、保護者の方々にご覧いただく機会が減ってしまいましたことを、とても残念に思っております。子どもたちは一人ひとりがしっかりと取り組むことができましたので、ご家庭でも、お子様のがんばりを称えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

これからも、本校では、地域をはじめとした伝統行事や文化に触れる機会を大切にしながら、教育活動を進めていきたいと思っております。ご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



5年生が「福井洞窟」について学んでいます。

本校では、生活科・総合的な学習の時間等をとおして、地域の「ひと・こと・もの」と連携してふるさと吉井町について学び、ふるさと教育の充実に取り組んでいます。その一環として、5年生では、昨年校区内にオープンした『福井洞窟ミュージアム』を活用した学習を取り入れ、旧石器時代～縄文時代における様子に想いを馳せながら、ふるさとの歴史について学びを深めています。先日も、ミュージアムに出向き、学芸員の方のご協力をいただきながら、施設の見学はもちろん、火起こしや勾玉づくりを体験することで、楽しみながら学習することができました。そして、昨日は、実際に現地を訪れて「福井洞窟」の様子を見学し、事前のミュージアムでの学びを生かした学習の充実を図ることができました。

福井洞窟については、全国的にも学術的価値が非常に高く、**2月20日(日)には、ミュージアムに係る記念講演会等が予定されており、子どもたちもその会に参加して、学習の成果を表現する機会をいただいております。**詳細はあらためてご案内いたしますが、子どもたちには我がふるさと吉井に、全国でも貴重なすばらしい学習資源があることを認識して学びを深めてもらい、参加者の方々にその成果を伝えてほしいと願っているところです。

これからも、地域の「ひと・こと・もの」を大切にしながら、学校全体としてふるさと教育の充実を努めていきたいと思っております。

